



観の記

郡山市立大槻小学校

学校だより NO. 4号

令和7年6月16日

発行者:校長 平野 美和

心肺蘇生法・AED 講習会を行いました 胸骨圧迫（心臓マッサージ）は、 強く、早く、絶え間なく！！

東北もついに14日から梅雨入りとなりましたが、学校のプールは水温が上がり、天候さえ良ければ入水ができます。今年は、6年生が一番乗りでプールに入りました。その後は、学年ごとに次々とプールに入り、嬉しそうな声がいつもプールから聞こえています。

6月13日（金）には、赤十字救急法指導員の平栗辰也様を講師としてお招きして、教職員が心肺蘇生法とAED講習会を行いました。事故がなく、楽しく水泳学習を実施できることを願っていますが、昨年は富山県のスイミングスクールで5歳児の死亡事故がありましたように、毎年水の事故が起っています。



万が一の場合に備えて「命を守る」研修は、子どもたちをお預かりしている私たちにとって必要不可欠であると考えています。

救急隊が到着するまでの時間は、平均で約10分30秒だそうです。（郡山地方広域消防組合管内）ということは、通報してから救急隊が到着するまでの間の救命措置が非常に重要であり、

【時間の経過とともに生存率が大きく低下すること】

【死戦期呼吸を呼吸していると勘違いしないで、すぐに胸骨圧迫を開始する】

【心肺停止から、脳への血流が止まり、10秒程度で意識を失う】

【1分から3分以内で救命措置を開始すれば、脳障害を避けられる可能性がある】等々、

いかに早く、胸骨圧迫を開始し、脳に酸素を送り出すか、救急隊員が到着するまでの約10分間の胸骨圧迫を継続させるためには、かなりの体力を使うため、複数人で交代しながら確実に胸部を押す必要がある等々、あらゆる事態を想起しながら、実技を通して研修を進めました。

